

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚 市議会
報告者	議長 真利 一郎 副議長 藪内 留治 事務局長 加藤 広行
視察日時	令和元年7月25日(木) 13:30~15:30
視察先	茨城県 常総市
概要	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>常総市は鬼怒川が市内の中央を南北に貫通し、市の東側の境界に沿って小貝川が流れている。</p> <p>平成27年9月に関東・東北地方を襲った豪雨災害により、鬼怒川が常総市内で決壊し、常総市では鬼怒川と小貝川に挟まれた市役所周辺を含む水海道地区が浸水被害にあった。当時、市民への避難指示は地区ごとに断続的に出されたものの、混乱の中で一斉指示が遅れたことが被害を拡大する要因にもなったとのことであった。</p> <p>当時の様子はテレビなどでも大きく報道され、我々の記憶にも残っているが、その時の被害状況や被災を教訓としたその後の取組みを常総市の防災危機管理課・溝上管理監から説明を受けた。</p> <p>説明の後の質疑応答では、災害時の議会の動きや自主防災組織などに関する質問があり、担当者にお答えいただいた。</p> <p>質疑終了後、議場を見学させていただき、視察を終了した。</p> <p>【詳細は別紙】</p>
所見	<p>平成27年9月関東・東北豪雨災害について</p> <p>常総市における豪雨被害の説明を受け、あらためて自然災害の脅威と被害の甚大さを思い知るとともに、災害を想定したハード面での備えとソフト面での体制整備や訓練の重要性を感じ、本市においても災害発生時の初動体制などを考えなければならないと学ぶことができた。</p>

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚 市議会
報告者	議長 真利 一郎 副議長 藪内 留治 事務局長 加藤 広行
視察日時	令和元年7月26日（金） 9：30～11：30
視察先	千葉県 松戸市
概 要	<p>子育て支援事業について</p> <p>松戸市は「子育てにやさしい街 まつど」を標榜しており、子育て支援に力を入れている。</p> <p>子育て支援の取組み強化のきっかけは、市長の「社会全体で子どもの成長を支えていくことが大切」との思いを具体化したことや、平成27年度からの国の制度を積極的に利用したとのことであった。</p> <p>子育て支援策、子どもの貧困対策、保育士確保に関する事業、児童館の運営などについてそれぞれの担当者から説明を受け、その後質疑応答を行った。</p> <p>質疑応答では、他部署の取組みなどについての質問が行われた。</p> <p>質疑応答の終了後、議場を見学させていただき、視察を終了した。</p> <p>【詳細は別紙】</p>
所 見	<p>子育て支援事業について</p> <p>本市においても同じような子育て支援策は行っているが、松戸市では施設の数や支援の手厚さ、投入している費用が圧倒的である。首都圏にある自治体ならではの財政力の強さが子育て支援を通じた市民サービスの内容に如実に表れている実態と、それによって人口の増加も引き起こしていることに、松戸市の財政力の強さがうかがえた。</p> <p>説明に当たってくれた担当職員がやりがいを感じて仕事に取り組んでいるであろう表情にも、豊かで伸びる余地のある自治体の元気な様子が感じられた。</p>

令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚 市議会
報告者	議長 真利 一郎 副議長 藪内 留治 事務局長 加藤 広行
視察日時	令和元年7月26日（金） 13：30～15：00
視察先	東京臨海広域防災公園
概 要	<p>（施設見学）そなエリア東京</p> <p>そなエリアは、災害発生時には国の防災拠点として、また、平時には防災体験学習施設として活用されている施設である。</p> <p>施設は、建物とその周囲の防災活動用地は国が、隣接の公園部分は東京都が管理している。</p> <p>施設内の視察として、災害時に内閣府が拠点として活動する本部棟の内部を見学し、発災時の運用方法などの説明を受けた。</p> <p>また、防災体験ゾーンでは、被災地を模した体験ゾーンで、タブレットを用いた体験学習を行った。</p> <p>【詳細は別紙】</p>
所 見	<p>（施設見学）そなエリア東京</p> <p>防災拠点と体験学習施設が一体となった画期的な施設であった。</p> <p>この施設は、主に首都圏における災害発生時に威力を発揮するものであるが、全国各地で災害が多発する現在において、京阪神や九州、北海道などにも類似の施設を整備することが望ましいと感じた。</p>

大阪府南部市議会議長会先進都市視察報告

貝塚市議会 議長 真利 一朗
副議長 藪内 留治
事務局長 加藤 広行

令和元年7月25日から26日にかけて行われた、大阪府南部市議会議長会先進都市視察に参加しましたので、その状況を次のとおり報告いたします。

○ 平成27年9月 関東・東北豪雨災害について（茨木県 常総市）
令和元年7月25日 午後1時30分～ 於：常総市役所議会棟2階 大会議室

冒頭、常総市議会の小林副議長から歓迎の挨拶があり、平成27年9月の豪雨災害から約4年が経過し、常総市でもようやく復興がなりつつあることなどが話されました。

また、常総市の藤島副市長からは、豪雨災害後、防災危機管理室に自衛隊OBを配置し、課に格上げするなどの組織改革を行ったことなどが話されました。

続いて南部議長会を代表して当番市である高石市議会の久保田議長から受入れに対する謝辞が述べられました。

視察事項である平成27年9月 関東・東北豪雨災害に関しては、防災危機管理課の溝上管理監（自衛隊OB）からパワーポイントを使用しての説明がありました。

まず、常総市の地勢について、鬼怒川が市内の中央を南北に貫通し、市の東側の境界に沿って小貝川が流れており、平成27年水害ではその両河川に挟まれた市役所周辺を含む水海道地区が浸水被害にあったことが説明されました。ほぼ腰の高さまで浸水した市役所は平成26年に建替えたばかりであり、建替えの10か月後に浸水したとのことで、非常用電源設備も水没したとの由。市民への避難指示は地区ごとに断続的に出されたものの、混乱の中で一斉指示が遅れたことが被害を拡大する要因にもなったとのことでした。

被害状況は死者14人、傷病者44人、家屋の全半壊5,163件、床上・床下浸水2,701件で、避難者は39か所に延べ6,223人、停電の復旧に最大1か月半、道路の復旧には最大半年を要したとの由。また農業被害は金額換算で62.3億円、災害廃棄物が大量に発生し、最終的には三重県伊賀市の業者に処分を依頼したとのことでした。

被災を教訓とした取り組みでは、庁舎と非常電源設備の浸水対策、電柱への想定浸水値の標示、災害情報システムの整備といったハード面の取り組み、検証委員会での報告書の作成、防災の日の設定、タイムラインの作成、防災教育・訓練の実施などソフト面での取り組みなどが紹介されました。

また、市の災害対策本部と市議会との関係では、両者の情報共有を図るため、市の災対本部に市議会代表がオブザーバーとして参加できるようにし、議会の災対会議を通じて議員全員と情報共有を行うようにしたとのことでした。

その後、引き続き質疑応答が行われました。

Q：災害後、議会の災対会議の体制変更はあったか。

A：議会側での体制変更は特にはない。

Q：災害発生時の市の災対本部と議員との関係は？

A：何人かの議員が災対本部に無理に入ったりして混乱が生じたため、議長が災対本部に参加することとした。情報の伝達は事務局を通して行った。

Q：防災士など職員・地域のスキルアップはどうしているか？

A：つくば大学からの出前講座や自主防災組織の結成率向上の活動などを行っている。

Q：自主防災組織のマニュアルはあるか？

A：昨年、地域防災計画とマニュアルを見直した。BCPも含め、引き続き精度を高める見直し中。

Q：市と地域との連携は？

A：避難所ごとに職員2人と地域住民2人が当たることとした。マニュアルや鍵の共有、共同の訓練などを行っている。

Q：支援物資の受け入れ体制は？

A：そこまでの定めはできていない。

Q：福祉避難所の設置は？

A：民間施設と協定を結んで整備中。避難確保計画の策定を促している。

Q：検証委員会での検証後の意識の変化は？

A：災対本部の環境整備や職員が一体となって対応する大事さを学んだ。図上訓練や毎朝の気象に関するブリーフィングを行っている。

Q：情報収集・発信の取組みは？

A：情報連絡票、時系列活動記録をパソコンで作成し、プロジェクターやパソコンで見られるようにした。

Q：マイタイムラインに関する予算は？

A：予算はない。つくば大学が作成してくれている。

以上のような質疑応答があり、豪雨災害の概要と教訓・取組事項についての説明が終了しました。

次に、議場に移動し、議場内を見学しました。

議会棟の建物自体がまだ新しく、木製を基調とした明るい雰囲気での議場でした。レイアウトや設備などは対面形式で階段状の一般的な議場だと感じました。

議場見学の後、午後3時30分に常総市での視察を終了しました。

常総市での視察を終えて、あらためて自然災害の脅威と被害の甚大さを思い知るとともに、災害を想定したハード面での備えとソフト面での体制整備、訓練の重要性を感じ、

このような事例を参考に、本市においても災害発生時の初動体制を考えなければならないと学んだ次第です。

○ 子育て支援事業について（千葉県 松戸市）

令和元年7月26日 午前9時30分～ 於：松戸市役所議会棟3階 特別委員会室

冒頭、松戸市議会事務局の荒木局長から歓迎の挨拶があり、市の概要について紹介されました。

次に南部議長会を代表して高石市議会の久保田議長から受入れに対する謝辞が述べられました。

その後、松戸市子ども政策課の篠崎主任主事の進行により、松戸市の子育て支援の取組みについて、各担当者から説明を受けました。

まず、「子育てにやさしい街 まつど」の資料により子ども政策課の鈴木課長補佐から松戸市の人口推移などが説明され、子育て支援の取組みが強化されたきっかけとしては市長の「社会全体で子どもの成長を支えていくことが大切」との思いを具体化したことや平成27年度からの国の制度を積極的に活用したことなどが挙げられました。子育て関連予算としては、平成30年度では49万人の人口規模で297億円という本市の一般会計予算総額並みの費用をかけていることにまず驚きました。これは後ほど、財政的に裕福な自治体だからできる事という説明にある程度納得がいききました。

具体的な取組みとしては妊娠・出産から子育てまで切れ目のない支援ということで、これは本市で行っているネウボラと同様ですが、とにかく施設の数や支援の手厚さ、投入している費用が圧倒的であり、財政力の違いを感じました。

次に、「松戸市の子どもの貧困対策」として、子ども政策課の東海林主査から子育て世帯生活実態調査の結果や市の支援策の内容、地域主体の子ども食堂の取組みなどが紹介されました。

続いて、保育課保育運営担当室の山内室長から、保育士確保に関する事業として、保育士奨学資金貸付制度や保育士賃貸住宅家賃補助、保育施設従事者支援補助などが説明されました。特に保育施設従事者支援補助（通称：松戸手当）は、市内の施設に勤務する保育士等に月額45,000円～78,000円の「手当」を支給するという驚くような制度で、これによって松戸市で勤務する保育士等の確保に大いに効果があるとのことでした。

最後に、子どもわかもの課の藤谷課長から児童館の運営について、その位置づけや行っている事業の説明がありました。児童福祉館・こども館では、小学生から中高生までを対象とした居場所づくりに取り組んでおり、生活困難層の子どもの支援に力を入れているとのことでした。

その後、引き続き質疑応答に移りました。

Q：給食費の無償化は行っているか？

A：給食費は無償化しておらず、実費徴収。

Q：ネウボラの取組みはどのようなものか？

A：包括支援センター3か所で保健師が主にリスクの高い家庭の支援を行っている。

Q：他部署の取組み（水道料金減免など）はあるか？

A：子ども部以外の取組みでは3世代同居に対する補助などがある。

Q：3世代同居補助金の利用状況は？

A：当初、2千万円の予算からスタートしたが、今年度は1億3400万円に伸びている。

Q：貧困対策としての学習支援はどこに重きを置いているか？

A：基礎学力の向上を図ることと受験対策に力を入れている。

また、事前に質問していた事項については、回答概要が記された資料が配付されました。

次に、議場に移動し、議場内を見学しました。

本会議場のレイアウトはやはり対面形式で階段状の一般的な議場で、議長席の後ろの壁面天井部分に特徴的なデザインが施されていました。デザインの理由を事務局職員に尋ねましたが、理由はよくわからないとのことでした。

議場見学の後、午前11時30分に松戸市での視察を終了しました。

松戸市での視察を終えて、財政力の強さが子育て支援を通じた市民サービスに如実に表れている実態と、それによって人口の増加も引き起こしていることに、首都圏のベッドタウンである自治体の元気な様子がうかがえました。また、説明に当たってくれた担当職員の年齢層の若さと、やりがいを感じているであろう表情にも、豊かで伸びる余地がまだまだある自治体への羨望の念を感じました。

○ 東京臨海広域防災公園（有明の丘地区・そなエリア）の見学（東京都 江東区）

令和元年7月26日 午後1時30分～ 於：そなエリア東京（防災体験学習施設）

まず、本部棟の本部会議室に案内され、内閣府の職員からこの施設の概要と災害発生時には国の防災拠点として利用されることなどが、また、国交省の職員からは平時には防災体験学習施設として活用されていることなどがパワーポイントを用いて説明されました。

次に本部長室やオペレーションルームを見学し、映画「シン・ゴジラ」の撮影にも使われたことなどをお聞きしました。本部棟は国の防災拠点らしく、頑丈な作りの建物に

内閣府・自衛隊・消防・警察・海上保安庁など関係機関の席を配置した会議室や食堂、ロッカー室や仮眠室など長期の活動にも耐えられるような設備が備えられていました。

続いて、防災体験ゾーンで体験学習を行いました。ここでは1人に1台のタブレットが配られ、タブレットに表示される問題を解きながら疑似災害体験ができるコーナーを回りました。体験学習ゾーンは、被災した街中がかなりリアルに再現されており、ここでの疑似体験は、まさに発災時はこうなるであろうというものを体験することができました。

その後、避難所を再現したコーナーや地震の揺れを体感できる装置などを見学し、最後に屋上庭園から公園の全体像を俯瞰し、午後3時に視察を終了しました。

この施設は、主に首都圏における災害発生時に威力を発揮するものですが、全国各地で災害が多発する現在では、京阪神や九州、北海道などにも類似の施設を整備することが望ましいと感じました。

以上、大阪府南部市議会議長会先進都市視察の報告といたします。